

九州大学 歯学部のあゆみ



1970年当時の医学部研究棟

現在の九州大学病院

1950年 医学部歯科学口腔外科学講座加来素六教授が医学部教授会で歯学部設置を提案

1954年 同講座に藤野博教授就任。学内で学部設置についての協力要請を重ねる

1964年 第1回歯学部設立準備委員会が発足。全学的な支援を得て学外への働きかけを行う

1967年 九州大学歯学部創立歯学部附属病院設置

1974年 大学院歯学研究科(博士課程のみ)設置

1982年 歯学部同窓会設立

2000年 大学院歯学府、歯学研究院設置

2003年 医学部附属病院、生体防御医学研究所附属病院と共に統合、九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院(呼称：九州大学病院)発足

2017年 歯学部創立50周年を迎える



九州大学 KYUSHU UNIVERSITY



九州大学歯学部 同窓会会長 久保 秀郎氏

伝統の継承と躍進 世界を牽引する歯科医療を



九州大学大学院 歯学研究院

コンセプト グローバル・情報発信・歯学・未来



九州大学歯学部 歯学部長 古谷野 潔氏

九州大学歯学部は今年で創立50周年を迎えます。当初から口腔の健康と全身の健康が不可分という先進的な考え方をもち、数々の優れた業績を積み重ねています。現在もOBT研究センターをはじめ、最先端の研究で世界的にも注目を集めています。50年の歩みや今後の取り組みについて、古谷野潔・九州大学歯学部長、中村誠司・九州大学病院副院長(統括・歯科担当)、久保秀郎・九州大学歯学部同窓会会長にお話を伺いました。

「口腔の健康から全身の健康に貢献」歯学部理念を病院が体現

九州大学歯学部の人材育成と研究、治療技術を支えた教育理念について伺います。古谷野 九州大学歯学部は、医学部口腔外科を母体として1967年に設立されました。週には、大正時代の医学部歯科学講座に端を発します。発足当初から、医学部で基礎的研究の発端のある先生方が大勢いらっしゃいました。ですから、歯だけにこだわることなく広く全身、人間全体を診るといった考えが浸透していました。現在は、歯をはじめとする口腔組織の再生に関する研究を進める「口腔組織の再生・再建医療研究」と、歯だけでなく口腔外科、口腔の病気を全身の健康とのかかわりを持って研究する「口腔健康科学」を二つの柱として取り組んでいます。例えば、口腔健康科学の分野では、味覚の研究など世界にも知られた実績があります。さらに2000年からは、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」という理念を掲げて、様々な研究と教育を行っています。口腔の健康が、脳の動きと全身の健康を左右することも分かってきました。そこで昨年、口腔機能(Organ Health)、脳機能(Brain Health)、全身の健康(Total Health)を包括的に科学する「OBT研究センター」を立ち上げました。

超高齢社会の中で歯科医療のあり方も変わってきています。従来、歯は悪いけれど体は元気で、自分の足で歯科医院を受診する患者さんが大半だったのですが、いくつもの病気を抱えているため歯科医院に通うことができません。歯科医療ではなく介護施設や病院等で歯科治療をしなくてはならないケースも増えています。健康寿命を延ばす上で、口腔の健康の重要性が認識されるようになり、高齢者歯科医療にも力を入れていきます。

九州大学での教育で特に印象に残っていること、現在力を注いでいることとはなんでしょうか。久保 基礎をしっかりと教えてもらったことです。歯科医療は、私たちが卒業してからも、インプラントや骨再生など新しい医療技術が出現しています。そうしたことに対応できる基礎的な知識や技術をたたき込んでもらったと思っています。古谷野 九州大学全体として「アクティブラーナー」を育てるという目標があります。歯科医療の知識は日進月歩ですから、卒業時点の知識だけではすぐに古びてしまいます。学び続けることが大切です。歯科医療は技術の一面

基礎学力と応用力、チャレンジ精神にあふれた学生を育成

研究分野でも「1分野1自慢」というユニークな取り組みをされています。古谷野 九州大学歯学部には20の研究分野があります。先生方は幅広く研究されていますので、一つに絞るのは難しいのですが「これが売りだ」という取り組みを分野ごとに一つ紹介しています。これによって歯学部の学生、親御さん、受験生やOBの皆さん、外部の企業の方々へ、九州大学歯学部が今何に取り組んでいるかを分かりやすく伝えることができたいと思います。中村 研究を紹介しようとする、どうしても文章が長く、内容も専門的で難しくなってしまうと思います。1行にすれば一般の方にも理解できる内容にしなければなりません。それが良かったのだと思います。古谷野 幅広い方に私たちの取り組みに興味を持ってもらうために、分かりやすく情報を発信することが求められています。病院での活動も患者さま

次に50年に向けてグローバルな人材の育成に取り組む。50周年を迎えた取り組みと感想を。古谷野 式典を執り行うだけでなく、伝統を形にしたいと思いついて、「グローバル情報発信 歯学 未来」をコンセプトにロゴマークを作成しました。また、先人たちが築いた歴史と英知を継承し、我々がさらに躍進させ、世界をリードし牽引するという思いを込めて、「継承・躍進・牽引」をスローガンとして掲げました。次の50年に向けた人材育成をどのように考えていらっしゃいますか。古谷野 基礎学力と応用力を兼ね備え、チャレンジ精神にあふれた学生を育成したいと思っています。九州大学歯学部はこれまで70人以上の教授を輩出してきています。今後、多くの逸材を輩出していきたいと思っています。久保 卒業生は、同窓会、母校とのつながりが大変強いと感じています。久保 非常に関係が良好で、お互いに助け合っています。同窓会では年1回の学術講演会、年4回の症例検討セミナー、ハンズオン実習付きセミナーを年3回、開催しています。九大の先生方に座長をお願いしたり、講師を引き受けていただいています。中村 学部教育でも同窓会に大変協力いただいています。入学して最初のオリエンテーションでは、久保会長も一筆に合宿してください。3、4年の釜山大学との人事交流でも同行していただきました。国家試験を受ける6年生を対象に、卒業後の話を聞く会も同窓会の協力で開催しました。開業した先生から情報を得ることで、学生は将来の目標を早めに立てることができているようです。

九州大学歯学部創立50周年記念 市民フォーラム 食と健康—美味しく食べて健康長寿— 創立50周年を記念して、公開市民フォーラムを開催します。料理研究家の山際千津枝さんをお招きし、食事と健康について講演していただきます。また、口腔機能と肥満、肥満がもたらす様々な病気について、九大医学部の小川教授、歯学部の重村教授が分かりやすく解説します。日時 6月17日(土) 14:00~16:00 (開場13:30) 会場 アクロス福岡 国際会議場4層 福岡市中央区天神1-1-1 講演テーマ・講師紹介 「人生美味しく食べよう」…ささっと作って健康生活 講師：山際 千津枝先生 料理研究家・栄養士・山際生活デザイン研究所主宰 「味覚と肥満」 講師：重村 憲徳先生 九州大学大学院歯学研究院 教授 「肥満は万病のもと」 講師：小川 佳宏先生 九州大学大学院医学研究院 教授 お問い合わせ / 092-741-8973 (受付時間 平日のみ 10:00~17:00)

中村 歯科医師過剰と言われた時期がありました。そんな時でも九州大学歯学部の志願者数はほとんど変わっていません。優秀な人材、意欲のある人材が集まっている証拠だと思います。古谷野 九州大学全体がグローバル教育に力を入れており、歯学部でもグローバルな人材の育成に取り組んでいます。例えば医療ツーリズムと新しい挑戦をするときに、九州大学歯学部OBならではの能力を身に付けた人材を育てなければなりません。中村 教員側もグローバル化を受け入れる準備ができています。病院内の文書も英語版を準備しています。久保 同窓会は50周年をどのように盛り上げていかれますか。古谷野 7月22日の記念式典と祝賀会の成功に向け、全国21支部での広報、寄付金を募り、各期ごとのクラス会開催をアピールしています。特に次のステップに向かう節目の5年目に同窓会に集まってもらえるよう働きかけています。親睦、研鑽、母校の発展応援が同窓会の三つの柱と考えています。古谷野 50周年を迎えたお気持ちとメッセージをお願いします。古谷野 課題に対応できる教育も行っています。学生時代から、この分野について教育し地域の変化ニーズに応じて教育内容も見直しています。「口腔の健康から全身の健康に貢献する」という九州大学歯学部の理念を、病院そのものが体現しているといえます。久保 私には、まずマロの目で診て、だんだんと絞っていくことにしています。口腔内全体の検査を行い、レントゲン、CTや口腔内カメラを使い、口腔内の状態を患者さんに見てもらいながら一緒に問題点を理解してもらいます。治療では、選択肢をたくさん持つて患者さんに提示をすることが大事だと考えています。日々の勉強で歯大の腕を増やし、その精度を上げることが必要だと思います。中村 大学院として高度な医療を提供するという役割を果たした上で、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」という歯学部の理念を診療の場で実践できる人材を育成し、歯学部の理念を体現する病院を目指します。2月に医療歯科連携推進プロジェクトを立ち上げました。医療歯科連携をさらに推進し、有病者や高齢者が求める歯科治療を提供できる人材を育てます。久保 1期生33人の大半が現役ですが、今後は医院の継承などが課題となります。同窓会として橋渡しをしたいと考えています。日進月歩の医療技術の最新情報を同窓生に伝え、患者さんから九州大学歯学部卒業の先生から安心と思っただけの開業医になれようとお手伝いを続けたいと思います。古谷野 皆さんの口腔の健康を守り、問題を解決するための治療を提供するのが私たちの役割です。そこに向かって歯学部、病院、同窓会が一体となって教育、研究、診療に取り組んでいきます。



九州大学病院 副院長(統括・歯科担当) 中村 誠司氏

歯周病と糖尿病など全身疾患の関係についても研究を進める

九州大学歯学部の主要な取り組みの一つ「OBT研究センター」について伺います。古谷野 歯の喪失がアルツハイマー病のリスクを高めたり、症状を悪化させる因子だということが分かってきました。逆に、入れ歯をしてかむことができないようになれば、認知症予防に効果があるのではないかと考えられています。これをさらに研究することが一つ。また、最近注目されている歯周病と糖尿病など全身疾患との関係についても研究を進める必要があります。優れた若手研究者をピックアップし、講座の縦割りの枠から解き放つて自由度を高めて研究をしてもらい、組織の活性化も目標としています。



ダミー